東通村 地域おこし協力隊 →活動レポート

今月は、東通村地域おこし協力隊OBの亀尾さんの現在の活動について取り上げます。

亀尾さんは、令和５年１月から令和８年１月までの３年間、村の地域おこし協力隊として活動し「買い物支援車わんつCAR」の運行調整や地域活動に積極的に携わりました。

現在は、価値が付きにくい魚「未利用魚」の活用や、付加価値を付けて漁師の方々が儲かる仕組みを設計する会社「合同会社JAPPA（じゃっぱ）」を設立。

共に活動する漁師仲間と東通村の漁業の発展のため、日々活動しています。





東通村地域おこし協力隊修了者　亀尾（かめお）　喬（たかし）
弘前市出身　２７歳

今月の『ひがしどおり小話』　No.43　東通村民歌体操が生まれました！

１１月に入り、めっきり寒くなりました。外出する機会も減り、運動不足になりがちです。

今月の小話では、運動不足にぴったりの、新たに誕生した『東通村民歌体操』をご紹介します。



練習動画はこちら

☚東通村民歌体操の動画は、東通村公式YouTubeでご覧いただけます！
２次元コードから、ぜひ動画を見ながら、皆さんも一緒に身体を動かしてみてください。

『東通村民歌』の音楽と号令に合わせて体操する「東通村民歌体操」が誕生しました。９月１４日に行われた東通村敬老会では、こども園ひがしどおりの園児と保健協力員等の皆さんが体操を初披露しました。会場からは、村民歌を口ずさむ声も聴こえてきました。

『東通村民歌』は、むつ市小川町に東通村役場庁舎が新設されることを機に作られた歌です。東通村は、１９８９年に現在の役場庁舎ができるまで、村外に役場を置く全国的にも珍しい形をとっていました。当時の「広報ひがしどおり」（１９６２年１２月２０日発行）には、１９６２年１１月３日に行われた小川町の庁舎落成式で、役場職員によって、村民歌が披露された記録が残っています。

♪み～どりの丘～　青い林～♪で始まる歌詞には、東通村の豊かな自然や風景が描かれています。作詞を手掛けたのは、山辺 将二郎 氏、朗らかで親しみやすいメロディを作曲したのは、名曲『月がとっても青いから』を作曲した陸奥 明 氏です。集落対抗で行われた村民体育祭や、尻屋埼灯台１５０周年を記念して今年開催された「灯台ワールドサミット in 東通」等、さまざまな場面で歌われ、長い間、村民に親しまれてきました。

そんな、世代の垣根を越えて愛されてきた『東通村民歌』に合わせて身体を動かし、楽しく健康づくりにつなげようと考案されたのが「東通村民歌体操」です。新たに生まれた「東通村民歌体操」で、健康・長生き！―♪体操をみ祖に受け継ぎ～♪